

東電福島第一原発(イチエフ)事故後11年8カ月。福島は全く終わっていません。

タービンを回して電気を得るために、核分裂を起こして地球上に大量の放射性物質をまき散らし核のゴミ(死の灰)を貯めこみ、地球上の数多の生物に危害を与える「海温め装置」原子力発電は直ちに止めるべきです。さらにひとたび原発事故を起こせば多くの命を失い多大な「国富の流出」を招きます。東京電力が福島第一原発事故後の処理に注力し総ての原発を廃炉にすることを願っています。

地球上の総ての生き物に傲慢でない施策を東電に求めます。納得できる回答をお願いします。

質問1【全般】原子力改革でなく原子力離れを

あれだけの事故を起こし福島は全く終わっていないにも拘らず、東電が相変わらず未だに原子力発電に執着して「原子力改革」をすることが理解できません。

質問1-1 原子力改革の進捗について、①本社機能の新潟への移転、②外部人財登用

③リソースの投入による本社・現場一体となった実効性の確保 を上げていますが、順調に進捗していますか？ それぞれの進捗を確認させてください。

質問2【東電の原発推進政策】

質問2-1 前回の質問に対し「低廉で安定的かつCO2の排出が少ない電気をお届けするために原子力は重要な電源」と回答されました。原子力発電による電気が低廉、安定的、CO2の排出が少ないとする根拠を教えてください。

質問2-2 賠償と原発投資

東電の賠償金の支払い状況(本年11月18日現在)によれば、累積で10兆5千億円(うち政府賠償1880億円、原子力損害賠償・廃炉等支援機構からの資金交付10兆3310億円)と発表しています。

一方で、次の報道がありました。

東京電力、総額3900億円の追加賠償を発表

福島第一原発事故巡る賠償基準の改定を受け2023年1月31日18時48分

東京電力は31日、国が福島第一原発事故の賠償基準「中間指針」を改定したことを受け、追加で支払う賠償内容を発表

した。対象者は少なくとも約148万人で、総額約3900億円。持病や介護などの増額分は算定中で、さらに増える。請求の受付開始日は3月中に示す予定という。

被災者らの集団訴訟で、指針を上回る賠償を東電に命じる判決が相次いで確定したことを受け、国の原子力損害賠償紛争審査会が昨年12月、9年ぶりに指針を改定した。

東京電力の主な追加賠償額
(子ども・妊婦以外)

帰還困難区域(大熊、双葉両町は全域)	130万円
居住制限区域 避難指示解除準備区域	280万円
自主的避難等対象区域	8万円
福島県南部(白河市、棚倉町、埴町、 矢祭町、矢吹町、鮫川村、中島村、 泉崎村、西郷村) 宮城県丸森町	6万円

賠償審査会が「中間指針」を改定するまで、ADRの仲裁和解案を拒否してまで本来すべき賠償を怠ったことをどう反省していますか？ この「東電と共に脱原発をめざす会」でも柏崎刈羽ほかの原子力発電の稼働の為に投資したり、日本原電の東海第二原発の為に資金支援することをやめて、きっちり賠償する様に訴えてきました。この状況を東電ではどう受けとめているのですか？

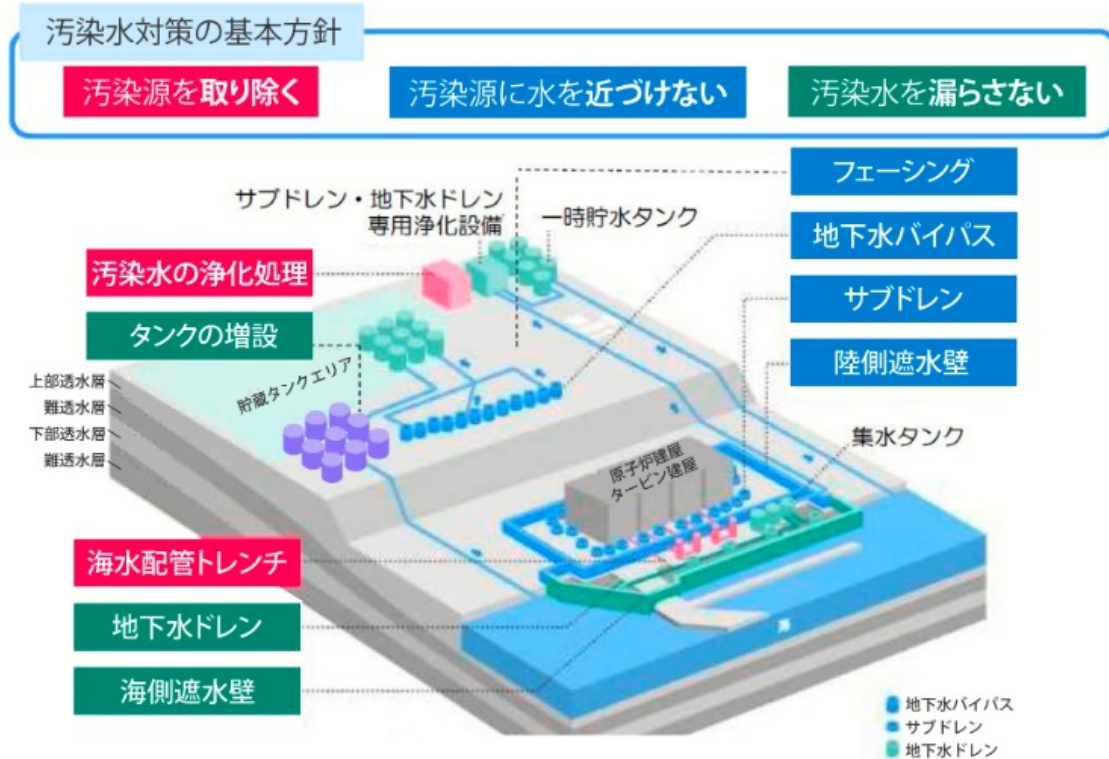
質問 3 【放射能汚染の影響】

質問 3 - 1 イチエフ放射能汚染の実態

前回のイチエフからの「各年の気体・液体・固体の年間推定放出量」についての質問に答えられませんでした。再度お尋ねします。

質問 3 - 2 イチエフ放射能汚染水の実態

エネ庁サイトの次の図に基づき質問します。



「原子炉建屋内の汚染水が建屋外に流れ出ることを防ぐために、建屋内の水位を建屋周辺の地下水位よりも低く管理しています。」としていますが、この水位管理で「建屋内の汚染水が建屋外に流れ出ることが無い」ことを、現場状況を踏まえて再度確認させてください。冷却工程が閉じていないのではありませんか？

質問 3 - 3 IAEA 調査団

原子力規制庁で 1 月中旬に一週間のレビューがされたそうですが、IAEA から何か重要な指摘がありましたか？ あるいは高く評価されたことがありましたか？

質問 4【イチエフ汚染水対策】 汚染水海洋投棄（「海洋放出」）計画

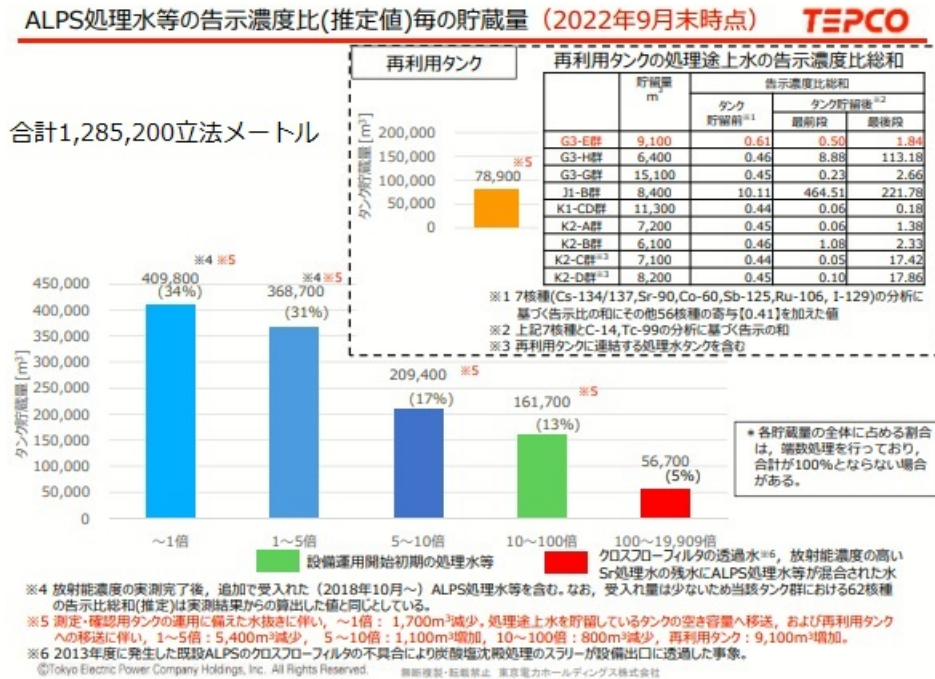
前回のご回答に追加質問します。

質問 4 - 1 前回に「タンクの解体撤去やその後に建設する施設の建設期間を考慮すると、2030 年度頃までにタンク容量を約 100 万 m³ まで減らす必要があると評価しております。」と答えられました。現在の汚染水量と約 7 年後までの汚染水量の各年の推定値を明示してください。

質問 4 - 2 東電のポータルサイトのタンク容量図が、以前は告示濃度比階層ごとに明示していたのに、今はそれが表示されないのはなぜですか？

なぜ、告示濃度階層ごとの放出を分かりやすく明示しないのですか。

また、9月末から本年1月26日までの118日間に39572立法メートル増えていますが、貯蔵量が一日335立法メートル増えたと推計できます。東電の地下水流入目標値一日140立法メートルの2倍以上です。その原因を説明願います。



質問4-2 世界三大漁場のひとつである北西太平洋漁場への影響評価を数十年の非定常モデルでシミュレーションするべきだと思います。何故その評価をしないのですか？

質問4-3 漁協の反対に対して「関係者の理解なしには放出しない」方針は当然ですが、早急に廃炉ロードマップを作り直すべきです。経産省と協議してください。

質問4-4 了解が得られない場合を想定して、次の策を準備するべきであるのに「当社の考えや対応について説明を尽くし、皆さまのご懸念や関心にしっかり向き合い一つひとつお応えしていく取組を進めてまいります」との回答は理解できません。またまた補助金などで押しえつけようとしているではありませんか？

質問4-5 2022年末の「測定・評価対象核種の見直しによる、放射線環境影響評価(建設段階*)の再評価結果について」において、「放出にあたっては、海水により100倍以上に希釈し、排出口でのトリチウム濃度を1,500ベクレル/ℓ(Bq/L)未満とする。これにより、トリチウム以外の核種の告示濃度比総和も100分の1未満に希釈される」とあります。希釈すれば濃度が低くなるのは当然です。かつての国内閉鎖性水域の水質汚濁総量規制と同様に各核種の総量で論じるべきではありませんか？

質問 4 - 6 前回は「海洋放出」は「トリチウム濃度の低い ALPS 処理水から順次放出することを基本方針」との回答でした。トリチウム以外の他核種の濃度にも配慮しないと他核種を大量に排出することが懸念されます。何らかの配慮はしないのですか？

質問 5 【イチエフ事故責任】

「3つの誓い」違反、「7つの約束」違反、「福島原発訴訟団」裁判、あらかぶ裁判、多数の損害賠償裁判、賠償審査会の増額指示、など多くの問題があり、事故責任をきっちりとしていただきたいと考えます。

質問 5 - 1 「廃炉中長期実行プラン」を作成しに基づき、計画的に廃炉作業を進めてまいりますとの回答でしたが、「廃炉」の定義が曖昧で法的規定も無いと聞いています。県民・国民と話し合っ、て、「廃炉」の定義をしてこれからイチエフ周辺がどの様に変更していくのかのプランを明示していただきたいと思ひます。

質問 6 【イチエフ事故原因追求】

質問 6 - 1 「東京電力福島第一原子力発電所事故の調査・分析に係る中間取りまとめ（2023年版）」が1月25日の規制委定例会議で確認され、パブコメにかけられています。この12年間の「事故の調査・分析」を東電はどうとらえているか教えてください。特に国会事故調査委員会の地震による配管破断についてはどう認識していますか？

質問 7【柏崎刈羽原発について】

質問 7 - 1 7号機の配管の穴について

東電は原因について10月27日に次の報告。

□7号機循環水系配管(A)の欠損原因について①

今回の配管(A)が欠損した原因について、いくつかの要因を視野に入れ、欠損部分を切り取った上で、詳細調査を実施

その結果、破断面や現場の状況から、現時点においては以下のプロセスで発生したものではないかと推定

- ① 人が立ち入って行う内面点検時の足場材や工具等の接触により塗膜に傷が発生
- ② 塗膜面の傷から水分が塗膜下に浸入し、錆が発生
- ③ 常時水分と接していたこと(湿潤環境にあったこと)で腐食が進行
- ④ 10月20日の健全性確認運転に伴い、内側に引っ張られる力が加わり欠損

□7号機循環水系配管(A)の欠損原因について②

3つある循環水系配管(A、B、C)の内、A系配管のみ放水路に熱交換を終えた補機冷却海水系の温かい海水が流入

放水路の海水が温められることで、配管内の空気との温度差が生まれ、配管内に結露が発生し、常に湿潤環境であった(B、C系は乾燥状態であることを確認)

仮に傷があったとしても乾燥状態であれば、これほど腐食の進行は無かったと考えており、A系配管のみ湿潤環境であったことが、主な要因ではないかと推定

一方で、穴の原因は作業員の足場のずれまたは工具の落下との報告も聞きました。最新の東電の見解とその根拠を教えてください。



東京電力柏崎刈羽原発7号機で、蒸気を水に戻した海水が流れる配管で見つかった直径6センチの穴（東京電力提供）

質問 7 - 2 「3号機申請に2号機のコピー 131 か所」流用について

これは非常に重い不正だと思います。なぜこの様な不正を行ったのかを説明願います。さらに原子力規制委員会の東電への対応と、東電の事実認識と社内処分と防止策をお聞かせ願います。

質問 7 - 3 大雪における交通障害や長時間停電について

昨年末12月18日から19日にかけての大雪で柏崎刈羽周辺の交通遮断がありました。この日の出勤率及び出勤要員数を教えてください。この様な大雪の折に原発稼働時に必要な要員を確保できるのですか？ 事故が重なった場合にUPZ内42万人の避難は可能ですか？

質問 7 - 4 使用済燃料プールについて

現時点の柏崎刈羽原発各号機の使用済燃料プールの状況を教えてください。6・7号機の稼働ですぐに満杯になるではありませんか？

質問 7 - 5 7号機南の大穴について

直径100mの大きな穴が確認されています。どのような穴がいつできたのですか？ 何らかの対策を講じられたのですか？ 特定重大事故等対処施設施設にできた穴ですか？ 詳細を教えてください。

質問 7 - 6 原子力規制委員会臨時会議について

次の会議(非公開)の概要を教えてください。

第68回原子力規制委員会 臨時会議の開催のお知らせ

日時 2023年2月1日(水) 16:00～17:30

議題 東京電力ホールディングス株式会社柏崎刈羽原子力発電所に対する追加検査の状況報告

質問 8【イチエフの耐震他について】

2月1日の原子力規制委員会定例会議の議題「東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所の中期的リスクの低減目標マップの改定(1回目)」も踏まえて質問します。

質問 8 - 1 前回の質問に対して「1号機のペDESTALの損傷など原子炉の耐震について、RIDの評価を踏まえれば、地震等によりRPVおよびPCVの大規模な損壊に至ることは無いと推定」との回答でしたが、その根拠を教えてください。

質問 8 - 2 「リスク低減目標マップ」でも耐震が議論されています。各号機はどれだけの地震に耐えうるとみなされているの教えてください。また、2号機の地震計が外壁に設置されたそうですが、その理由と妥当性を確認させてください。

質問 8 - 3 水素の発生への危惧が委員から示されました。東電の捉え方とリスクを説明願います。

質問 8 - 4 放射性物質(主にCs-137)の所在状況として「総放射能(放出分除く)」515PBqと記載されています。この12年間各年の放出分はおおよそどれだけと推定していますか？

以上